



令和 6 年度フード・コミュニケーション・プロジェクト 若手フォーラムスケジュール（案）

農林水産省

大臣官房 新事業・食品産業部

食品製造課 食品企業行動室

フード・コミュニケーション・プロジェクト（F C P）事務局

令和6年度若手フォーラム スケジュール・プログラム（案）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	若 第 手 1 フ 回 ォー ーラ ム	若 第 手 2 フ 回 ォー ーラ ム	若 第 手 3 フ 回 ォー ーラ ム		若 第 手 4 フ 回 ォー ーラ ム		若 第 手 5 フ 回 （作 業日） ォー ーラ ム		若 第 手 6 フ 回 （作 業日） ォー ーラ ム	F 令 C 和 P 6 活 年 動 度 報 度 告 会	

回	テーマ	講演 / WS
第1回	『食』への信頼を創る	・ FCPとは（発足の経緯、趣旨等） ・ 若手フォーラムの趣旨、概要 ・ チームビルディング ・ 自己紹介とフォーラムでやりたいこと
第2回	食品安全と品質保証に対する考え方	・ 食品業界の信頼性向上について－ 5つの基本原則 ・ 組織の内部的取組 － 協働の着眼点「ベーシック16」 ・ 失敗から学び、食品安全を再構築した企業事例 ・ 「ベーシック16」記入 & 意見交換
第3回	消費者への伝え方	・ マーケティング等 ・ 消費者購買行動調査 ・ 学び、課題など気づきの共有
第4回	信頼を高めるコミュニケーション	・ 消費者志向自主宣言 ・ 消費者志向自主宣言（消費者庁）宣言企業事例 ・ 信頼を高める企業行動を考える

(参考) 令和5年度若手フォーラム 講演内容



回	テーマ・講演タイトル		講師
第 1 回 (6月28日)	食の信頼の確保 《FCPの成り立ちから食品安全文化について学び、参加者同士の交流を深める》		
	講演1	FCPとは～食品安全文化の醸成～	日本大学大学院 神井 弘之 氏
	講演2	FCP若手フォーラムについて ～若手フォーラムの趣旨・概要、令和 4 年度成果物の紹介～	株式会社フードサニテーション78 山下 安信 氏
	WS	若手フォーラムで学びたいこと	
第 2 回 (7月26日)	食品安全と品質 《食の安全の基本となる品質保証を学び、他社との情報および意見交換を実施する》		
	講演 1	品質保証のための規格認証について	The Consumer Goods Forum, Japan 大久保 力 氏
	講演 2	企業の品質保証の取組	国分グループ本社株式会社 瀬川 恵寛 氏
	WS	食品安全と品質	
第 3 回 (9月13日)	信頼を高めるコミュニケーション 《エシカル消費（倫理的消費）を促すコミュニケーションを考える》		
	講演1	食のエシカル消費について考える	日本女子大学 細川 幸一 氏
	講演 2	お客様と産地をつなぐサステナブルの取り組み	オイシックス・ラ・大地株式会社 東海林 園子 氏
	WS	信頼を高めるコミュニケーション	
第 4 回 (11月16日)	社会環境の変化 《多様化する食品産業をあらゆる角度から分析し、食品産業の未来を予測する》		
	講演	世界の食トレンド～あらゆる角度から～	Innova Market Insights 田中 良介 氏
	WS	最終成果物作成導入（テーマ決め等）	
第 5 回 (1月25日)	◆最終成果物（2月活動報告会にて発表）の作成 ※予備日を 1 月31日に設定		

(参考) 令和5年度若手フォーラム 参加者の声

◇参加者からのご意見（一部抜粋）

【（第一部）講演について】

- ・ 日本国内だけでなく世界基準で認められる認証について初めて意識した。＜第2回＞
- ・ 消費者の「知らされる権利」について、見ようとしなければならぬということ、今の時代に必要であると感じました。＜第3回＞
- ・ 企業が努力していることをアピールしつつ、まだ足りていない部分も消費者に理解してもらい、誠実に訴求することで信頼を構築していけるのだと分かった。＜第4回＞

【（第二部）ワークショップについて】

- ・ リモートでの参加だったため、皆さんと上手くコミュニケーションをとることができませんでした。
- ・ 少し人数が多く話し合いが難しい一面もありますが、上手く全員の意見を伝えられるようにしたいです。
- ・ お題がざっくりしていて何から始めて何を結論とすればよいか悩みました。
- ・ 回数を重ねるにつれ、深い議論ができています。議題に関すること以外にも、近況（業界の）が聞けて面白いです。＜第3回＞

◇令和5年度若手フォーラムの様様

①講演



②ワークショップ



③チームごとの発表

